

## 心臓血管外科

当院心臓血管外科での研修の一番の魅力は豊富な症例を経験できることです。当院では年間300例以上の開心術、約400例の心大血管手術を行っており、その内容も虚血性心疾患、弁膜症、大血管など先天性心疾患以外の領域をほぼまんべんなく網羅しています。その中で年間70例程度（そのうち開心術が50例程度）を主治医として担当することになりますが、担当症例は術前カンファレンスにて術前評価と治療計画を自らまとめ発表し、術式などのstrategyについてフィードバックを受けることができます。担当症例は基本的に第1助手として手術に参加し、担当症例でなくても第2助手として手術に参加する機会が多くあります。術後は毎朝のカンファレンスで全ての症例についてその日の治療方針を話し合うので、疑問や問題点などがあっても非常に相談しやすい環境になっています。

手術手技については担当症例であれば基本的に開胸・閉胸は自ら行い、到達度によって体外循環のセットアップも行います。冠動脈バイパス術であれば大伏在静脈グラフトの採取を行います。当院では大伏在静脈の採取に内視鏡を使用する方法も積極的に行っており、従来通りの切開にて採取する方法と共に両方を経験することができます。後期研修3年目になると下肢動脈のバイパスや内シャント増設などの執刀の機会も与えられます。

当院の特徴として緊急手術が多く、1年間で50例程度、そのうち急性大動脈解離が30例程度あります。当科での緊急手術が必要な状況下では数分単位の時間差で生命予後が左右され、少しの判断や手順の違いで重篤な合併症が起こることもあります。手術適応や緊急度の判断、手術開始までの全身管理、手術を迅速に開始するための麻酔科やコメディカルとの連携など必要なことが多々ありますが、これらを実際に経験し学んでいくことができます。

当院心臓血管外科で「質の高い標準的治療」を数多く経験することで、疾患ごとの治療方針・術式の選択や緊急時対応などの判断、そして開心術に必要となる手技の基礎、それらを徹底的に学ぶことができるため、心臓血管外科医としての最初の3年間で当院で研修することは今後にとっても非常に有意義なものであると確信できます。興味のある方は是非一度見学にお越しください。